



サイジヤナル

月刊
3-3・4
第456号

日本サイ科学会 令和3年3月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX (095) (883) 6159
--	--	--	---	---

四月本部例会のお知らせ

会員の体験意見発表と討論の会

日時 令和3年4月18日(日)
午後1時30分～4時30分
会場 北とぴあ9階902会議室
交通 J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 一〇〇〇円

新型コロナウイルスの第3波により、残念ながら12月の「会員の体験意見発表と討論の会」が中止となりました。1月7日に発令された2回目の緊急事態宣言により、感染者数は減少しており、日本におけるワクチン接種も始まりました。また、感染者数の変動はあり、油断はできませんが、未開催の12月の会を改めて開催致します。毎年恒例となっている一人の講師の講演ではなく、参加者の皆様からのUFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象に関する目撃・体験や意見の発表、それら

◎事務局からのお知らせ

※今月は年度替わりですので、「会費納入のお願い」の通知と郵便振替用紙が同封されています。いろいろ出費の多い時期で恐縮ですが、日本サイ科学会の活動は皆様の年会費で支えられておりますので、早めのお振り込みをよろしくお願い致します。

※また、日本サイ科学会は近年、会計が厳しくなっておりますので、少しでも御寄付が戴きましたら、助かります。恐縮ですが御寄付をいただける方は、同封の郵便振替用紙の該当欄にその金額を記入し、年会費に追加して、お振り込みをお願い致します。

テーマにした意見交換・討論等、気楽な感じで懇談会を開催致します。

皆様の中で、ご自分で撮った不思議な写真、ビデオ映像等をお持ちの方や、UFO、超常現象、心霊現象、オーブ等サイ現象で発表したいことがありますら、是非事務局にメールでご連絡願います。
office21@psij.mail-box.ne.jp

今月号の記事

- ◎ 四月本部例会のお知らせ
- ◎ 事務局からのお知らせ
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 「心を科学する博物館」アーカイブについてのお知らせ
- ◎ 「ムー3月号」オーブ記事掲載
- ◎ 関西日本サイ科学会三月研究集会のお知らせ
- ◎ 第42回宇宙生命研究分科会予告
- ◎ 第12回スピリチュアル研究分科会のお知らせ
- ◎ 令和元年6月本部例会の報告Ⅲ
- ◎ 第四五四回関西サイ科学会報告
- ◎ 『バクトロン仮説』(政木和三博士)と「反重力」
- ◎ 本部例会ビデオ映像販売
- ◎ サイ(気)による念写像の物質化(その1)
- ◎ サイ現象はアクシオンによって起きている!

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がりま

す。
参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

※感染者数が急増した場合は、本部例会、分科会等の中止もあり得ますので、ご参加前に公式サイトをご覧願います。

※3月と5月の本部例会は通常のお休みとなります。

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(2/10受領分まで)

金一万七千円也 小林 信正 様

◎「心を科学する博物館」アーカイブについてのお知らせ

「心を科学する博物館」のアーカイブが充実してきましたので、お知らせ致します。

「サイジヤナル創刊号」(1976年1月号)から、「394号」(2010年11・12月号)までの目次と、「395号」(2011年1・2月号)、「444号」(20

19年3・4月号)までの目次+本文のPDFファイルが掲載されておりますので、過去のサイジヤナルに興味のある会員の皆様はチェック願います。

<http://psi-science.org/kokoro/psi/psi-backnumber.html>

◎「ムー3月号」オーブ記事掲載

月刊「ムー3月号」に本会幹事の小澤佳彦氏が書かれた記事が掲載されました。

●最新サイキック・レポート

「カオス解析で判明した念球のメカニズム オーブは念写だった!」(90頁〜95頁)

佐々木茂美先生と苗鉄軍先生の共著「心と物質(念写と透視)」の解説を、福来友吉博士の念写写真や、清田益章氏の念球写真、小澤佳彦氏のオーブ写真、佐藤禎花先生が撮られた動画映像写真等も用いて、時系列的に並べて書き下ろされています。

会員の皆様には楽しめる読み物になっていきたいと思いますので、是非ご覧願います。

※「ムー3月号」はアマゾンのKindle版でも読むことが出来ます。

関西日本サイ科学会
三月研究集会のお知らせ

出口王仁三郎と霊界物語

講師 出口 孝樹氏

日時 令和3年3月20日(土)
13時30分〜17時(開場13:15)
会場 阿倍王子神社参集殿
交通 ・阪堺電軌上町線「東天下茶屋」駅下車徒歩5分

・大阪メトロ御堂筋線「昭和町」駅から徒歩15分
・まつむし音楽堂から阿倍野筋沿いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千元
一般三千元(初回参加者二千元)
学生一千元

講師を囲む懇親会(17:30〜19:30)
会場未定会費三千元 定員10名

問合せ06・6624・0559
※関西日本サイ科学会の公式サイト申し込みフォームから、事前予約願います。

講演内容

出口王仁三郎(明治4年〜昭和23年)は、稀代の宗教家であり、京都府綾部市を発祥地とする新宗教『大本』の教祖の一人です(もう一人の教祖は出口直二なお開祖)。書画、陶芸、歌の道にも通じておりそれぞれに膨大な数の作品を残しています。

大正10年と昭和10年の二度に亘り国家から弾圧を受け、当時の世間からは、国賊、逆賊、詐欺師、怪物などと呼ばれました。戦後から近年にかけては、宗教ブームやスピリチュアルブームなどの影響もあって王仁三郎に対する評価も変化しました。予言者、霊能者などと神秘的に称されたり、破天荒な行動と気宇壮大な人柄から、大化け物、巨人などと呼ばれることもあります。没後73年を経た今日もなお、その言葉には収まりき

らないほどの存在感を放っていません。

今回は、いくつもの顔を持つ出口王仁三郎を様々な角度から捉えて解説し、王仁三郎のおおよその輪郭を感じとっていただくとともに、その宗教思想の核心ともいえる『霊界物語』(全81巻83冊)についてお話し申し上げたいと思います。もちろん83冊にもおよぶ『霊界物語』を一日で説明し尽くすことは不可能ですが、その内容であるところの、宇宙の創造・神々の地位や因縁・神と人との関係・霊界の真相・人生の目的と使命・哲学・宗教・政治・経済・教育・芸術・恋愛等々の中から、いくつかのストーリーをピックアップしてお話しさせていただきます。出口王仁三郎の魂に触れていただく良き機会になれば幸いです。

◎出口孝樹(でぐちこうき)氏のプロフィール

1969年京都市生まれ。出口王仁三郎が著した壮大なスピリチュアルストーリー『霊界物語』(全81巻83冊)の勉強会を全国各地で開催している。大本宣伝使。大本信徒連合会代表役員。『霊界物語コ

ミックス』などを監修。

※関西日本サイ科学会四月研究会につきましては未定ですが、関西日本サイ科学会の公式サイトをときどきチェック願います。

第42回宇宙生命研究分科会

第3回ソクラテスシンポジウム
テーマ「宇宙と国家」

日時 令和3年3月28日(日)

10:00~16:00(9:30開場)

会場 北沢タウンホールスカイサ

ロン(世田谷区北沢2・8・18)

交通 小田急線・京王井の頭線

下北沢駅北口徒歩5分

小田急バス北沢タウンホー

ル系統 下61(駒沢陸橋一

北沢タウンホール)終点

参加費 一般 二千元

学生/サイ・サトル会員 一千元

宇宙人0円(但し受付の要認可)

開会宣言 竹本良

「宇宙人時代の国家とは?」

常深信彦選考委員長

「第3回ソクラテス賞について」

① 港マコ(イベント構成作家)

「宇宙人の思考」

② ゆかり(メンタルトレーナー)

「子育てママから見たトランプ、

コロナ、国家」

③ 布施純郎(自然療法内科医)

「コロナの陰謀と未来医療」

④ 村上正海(村上水軍歴史保存会)

「村上水軍と宇宙」

⑤ UCO(アカシックリーダー)

「人間存在と宇宙と国家」

⑥ ミラクルもも(イラストレーター)

「世の中がマトリックスだと

気が付いた2020年」

⑦ スジャータ女史(ラジオパーソ

ナリテイ)

「レムリアの政治と宇宙」

⑧ 佐伯恵美(スピリチュアル*オ

ーガナイザー)

「現象界における宇宙と国家」

⑨ みちよスピリチュアル(スピリ

チュアル*カウンセラー)

⑩ 松島幸樹(マナーズサウンドセ

ラピスト)

「隠された真実 映画(未知との

遭遇)とマナーズサウンド」

⑪ 水月千歳(ライトランゲージト

ランスレーター)・黒米真紀(リ

ンパ・療法師・ジュエルセラピ

スト(つば療法師))

「霊性を開く、宇宙語」

⑫ 神尾学(エソテリック*サイエ

ンス*スクール主宰)

「秘教的エネルギー宇宙論より、

これからの人類と国家の進路

を考える」

ほか

パネルディスカッション

「宇宙と国家」

基調講演「エイリアン ブルース」

蘆三(アッシー)

閉会宣言 阿久津淳

「国家は中宇宙(メドコスム)！」

※プログラム時間等詳細はこちら
をご覧ください。

[http://takemoto.marginalbox.com/
event/socrates-210328/](http://takemoto.marginalbox.com/event/socrates-210328/)

第12回スピリチュアル研究
分科会のお知らせ

テーマ

「心霊能力の検証と開発法」

講師 小林 永周氏

日時 令和3年5月23日(日)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階701会議室

交通 J R 京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元 (当日入会可)

一般 二千元 学生 一千元

*事前参加申し込みは不要です。

*当日会場にて直接、現金にて参

加費をお支払い下さい。

(講演内容)

霊能者というとは何となく胡散臭く眉をひそめる人々がいる反面、妄信して金品を騙される者さえいます。

確かに目に見えない心霊的なものは現代の科学機器では捉えることが出来ず、客観的に検証するのは困難であります。

古今東西の預言者や教祖、シャーマンとか、現代においても霊視

や霊聴、霊言など優れた心霊能力を持った人々から怪しい自称能力者等々、ピンからキリまで様々に存在しています。

私は63年間、これらの心霊能力の真偽について好奇心を抱き、テレビ局の番組制作に携わっていた立場から興味津々、内外の心霊能力者330人の取材を通して、時には実験、検証や脳内でのメカニズムの究明にも努めてきました。

その折の実験、検証の映像を通して誰でも持っていると思われる潜在能力開発法の一部を披露し、さらにインチキ霊能者に騙されないための心得についてもお話したいと思っています。

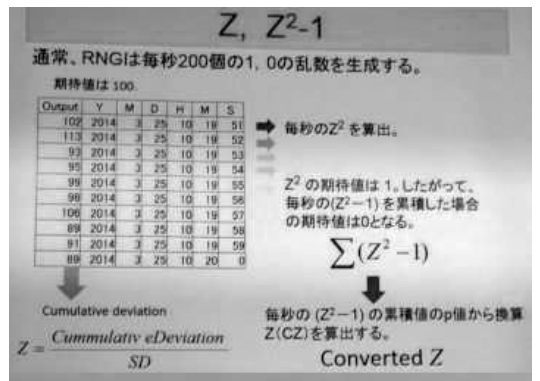
令和元年6月本部例会報告Ⅲ

マイクロPK現象の検出
メカニズムについて

講師 小久保 秀之氏



通常、乱数発生器(RNG)は1秒間に200個の1、0を生成します。偏りができたかどうかは、1が沢山出たか、0が沢山出たかをトータルで計算して、図のZの数値を出します。ある瞬間がどうかは1秒ごとにZの2乗を出します。Zの2乗の期待値は正規分布から1となります。それをそのまま足していくと、無限に大きくなるので、Zの2乗から1を引くと0になって、それを累積加えた数値をp値とします。そのままでは扱いにくいので、その累積値から換算Z(CZ)を求めます。冒頭でご紹介した地球意識計画(Global Consciousness Project)の9・11の偏りもこの換算Zで計算したものです。

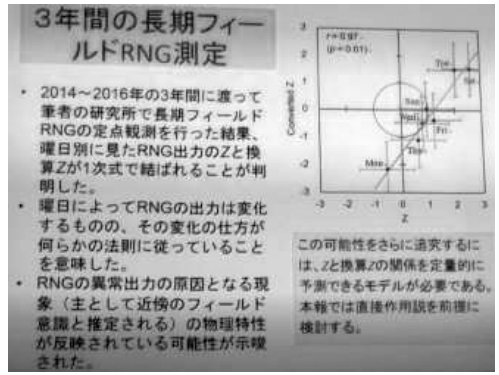


ですから1秒ごとの偏りをすべからず分析していつ、0からどれくらい離れているかを見ます。乱数発生器で1に偏る方がいいのか、0に偏る方がいいのか、というような素朴な議論があると思います。Zの2乗なのでどちらに偏っても構わないという考え方は、同じビルに入っているカルト教団について、2014年から2016年までの3年間、月曜から土曜日まで毎日24時間のRNGの定点観測を行って、曜日によるRNGの出力の変化が、何らかの法則に従っていることが分かりました。

横軸に累積Z、縦軸に換算Zのグラフを描くと、月曜日から日曜日にかけて、右肩上がりの直線上に並びます。

この直線（特性直線と呼ぶ）は、カルト教団に集まっている方々の集団的な無意識（念力）の特徴を表しているのだらうと解釈しております。以前ブラジル等の宗教儀式に参加して、RNGを測定し、グラフを描くと右肩下がりの特性直線になりました。

フィールド意識の感情（清水・石川モデル）は、横軸に快・不快軸（Z）、縦軸に覚醒軸（換算Z）とすると、4つの象限が「驚き・

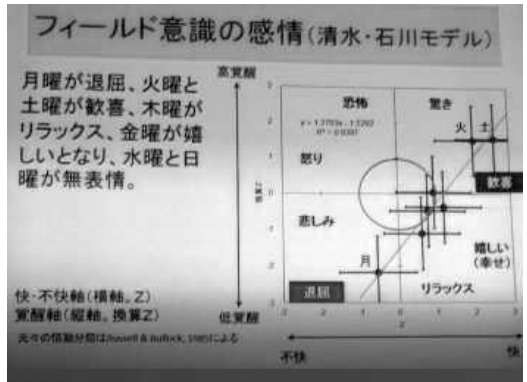


「ブルーマンデー」、火曜と土曜が歓喜、木曜がリラックス、金曜がうれしい、水星と日曜が無表情となります。月曜日は退屈だけど、週末は楽しいよね、という感じでしょう。

特性直線が第3象限↓第4象限↓第1象限に抜けているのは、全体として教会に来るような人々は、第2象限の「恐怖・怒り」から離れていると解釈されます。

歓喜、「恐怖・怒り」↓「悲しみ・退屈」、「うれしい・リラックス」に分けられます。

これを見ますと、月曜は退屈、「ブルーマンデー」、火曜と土曜が歓喜、木曜がリラックス、金曜がうれしい、水星と日曜が無表情となります。月曜日は退屈だけど、週末は楽しいよね、という感じでしょう。



- 「PK検出の仮説」は次の3つに大別されます。
1. 直接RNG(物理乱数発生器)にPKが働いて、出力が変わる↓直接作用説
 2. 最終的に出力された乱数に、直接PKが作用する
 3. 偏りが生じるタイミングを予知して、そのタイミングでRNGを作動させる↓決定増大理論
- ↓Goal-oriented仮説、観測理論
- 2と3は、マクロPK、バイオPKから推定されるPKの性質を

PK検出の仮説

物理乱数発生器(RNG)はどのようにしてPK(psychokinesis)を検出しているか？ RNGのPK検出機構の仮説は次の3つに大別できる。

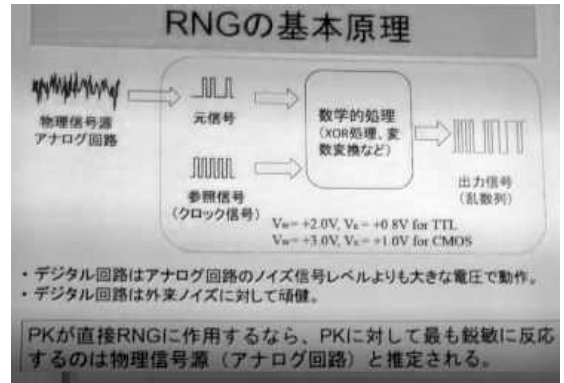
1. 直接RNGにPKが働いて出力が変わる(特に呼び名がないので、ここでは直接作用説とする)。
2. 最終的に出力された乱数に直接PKが作用する(Goal-oriented仮説、観測理論)。
3. 偏りが生じるタイミングを予知してそのタイミングでRNGを作動させる(決定増大理論)。

観測理論や決定増大理論は、マクロPK、バイオPKから推定されるPKの性質を説明しがたい。

RNG出力乱数のZや換算Zを定量的に議論できるモデルが必要

説明しがたいのです。RNG出力乱数のZや、換算Zを定量的に議論できるモデルが必要となります。

RNGの発生は、最初は放射性同位体を使っていましたが、今は電気回路の熱雑音等を使っています。アナログ信号をデジタル信号に直して、さらに数学的処理をして、出力信号(乱数)を発生しています。したがって、PKはアナログ信号に働いているのですが、デジタル信号に変換する過程で、



XOR

超心理学で使われている多くのRNGは、XOR処理のみを行う。

XOR処理は、参照信号を使って、次のように元信号を変換する。

1, 1 → 0	1, 0 → 1	元信号	10111001111
0, 1 → 1	0, 0 → 0	参照信号	10101010101
		出力信号	00010011010

ここでは最も簡単な場合を検討する。

1. 直接作用説を仮定。
2. クロック信号を参照信号とするXOR処理のみ。

反応が弱められると考えられます。

超心理学で使われている多くのRNGは、XOR処理のみを行います。XOR処理というのは、右図のように、元信号と参照信号の組み合わせで、1・1が0、1・0が1、0・1が1、0・0が0の出力信号を出します。

出力異常には次の3つのパターンが挙げられます。

出力異常の3パターン

RNGにPKが作用した場合の出力異常は、次の3パターンがある。

(A) 出力信号に全く偏りが無い。
 (B) 0が異常に多い。
 (C) 1が異常に多い。

(A) 出力信号に全く偏りが無い。	(B) 0が異常に多い。	(C) 1が異常に多い。
Original 111111111	Original 101010101	Original 010101010
Reference 101010101	Reference 101010101	Reference 101010101
Output 010101010	Output 000000000	Output 111111111
元信号は1または0のみ。	元信号は参照信号と同位相のクロック信号。	元信号は参照信号と逆位相のクロック信号。
出力信号はクロック信号になる。2=0で2=0となる。	出力信号は0のみになる。2=0で2=0となる。	出力信号は1のみになる。2=0で2=0となる。

- A. 出力信号に全く偏りが無い。
- B. 0が異常に多い。
- C. 1が異常に多い。

それらは元信号と出力信号の関係が右図の3つの場合になります。したがって、モデルはどんな物理現象が、どのような元信号の異常を起こすのかを説明する必要があります。1970年代以降の実験研究を基に、ありそうな物理機構を検討してみます。

初期段階で熱雑音は1、0に変

(A) 出力信号に偏りが無い、すなわち元信号が1ばかり、あるいは0ばかり。

RNGの物理信号源として熱雑音を考える。初期段階で熱雑音は1、0に変換され、元信号となる。熱雑音に関わるアナログ回路の部分に直接PKが作用すると何が起こるか考える。もし物理信号源とそのアナログ回路にPKが直接作用し、

- (A-1) 熱雑音が異常に小さくなると元信号は0ばかりになる。
- (A-2) 熱雑音が異常に大きくなると元信号は1ばかりになる。
- (A-3) PKが検出可能な電気信号を生じさせれば、元信号は1ばかりとなる。

換され、元信号となる。熱雑音に関わるアナログ回路の部分に直接PKが作用すると何が起こるかを考える。

もし、物理信号源とそのアナログ回路の部分に直接PKが作用し、

- A1. 熱雑音が異常に小さくなる
- と、元信号は0ばかりになる。
- A2. 熱雑音が異常に大きくなる
- と、元信号は1ばかりになる。
- A3. PKが検出可能な電気信号を生じさせれば、元信号は1ばかりになる。

結論としては、RNGはとても感度が悪いということになります。

(B) RNGの出力に0が異常にたくさん出る、すなわち、元信号が参照クロック信号と同位相のクロック信号になっている。

- 優れたPK能力者であっても、PKの意図的な制御は容易でない。物理信号源の信号をPKで高周波のクロック信号と同調させることは、さらに困難と思われる。
- 特にフィールドRNG実験は、その場にいる複数の人の無意識的なPKの集積的効果を検出するので、参照クロック信号との同調を起こすような精密制御はほとんど不可能に思える。
- しかし、PK実験でRNGの出力異常が観察されるという事実から、実際に同調が起こっていると考えなければならない。
- そこで、PKによる異常電磁現象が発生すれば、物理信号源と参照クロック信号との同調が必然的に発生する仕組みを考える。

優れたPK能力者であっても、PKの意図的な制御は容易ではありません。物理信号源の信号をPKで高周波のクロック信号と同調させることは、さらに困難と思われ

ます。ただ、PK能力者がPKにより、異常電磁現象を発生させる、例えば、物理信号源と参照クロック信号を同調させる場を作れば、同調が必然的に発生することになります。

人はRNG出力をどうやって制御するか？

- CAWモデルでは、被験者はRNGの出力異常を起こすために、PKを精密制御して参照クロック信号に合わせる必要が無い。PKをRNGに作用させるだけで出力異常が発生する。
- もしRNGの出力を意図した方向に偏らせたいなら、声の大きさや声の高さを変えるようにPKの出し方を変えて、PK場の波長や減衰率、あるいは位置を少しだけ変えればよい。
- 適切なフィードバック情報が与えられるなら、被験者がRNGの出力を意図した方向に偏らせることが可能と考えられる。



RNG（物理乱数発生器）内に生じるPK場に、カップリング、アナログ信号異常、波形の場という3つの性質を仮定することで、RNGの出力異常を説明できる。このモデルをCAWモデルと呼ぶことにします。

CAWモデルでは、被験者はRNGの出力異常を起こすために、PKを精密制御して参照クロック信号に合わせる必要がありません。PKをRNGに作用させるだけで出力異常が発生します。

適切なフィードバック情報が与えられるなら、被験者がRNGの

今後の課題

- CAWモデルではRNGの異常出力を3通りに場合分けするので、各場合の発生確率と持続時間という計6個の(包括的)変数で異常出力を説明することになる。
- しかし、5変数の場合は連立方程式を解析的に解けたが、6変数の場合がまだ解けていない。
- 出力データから逆問題でアプローチするより、RNGの内部の信号を直接記録の方が現実的と思われる。

- RNGの内部の信号を記録・検討する。
- PK検出用のアナログ回路の開発を検討する。

出力を意図した方向に偏らせることが可能と考えられます。

CAWモデルではRNGの異常出力を3通りに場合分けするので、各場合の発生確率と持続時間という計6個の変数で異常出力を説明することになります。5変数の場合は連立方程式を解析的に解けましたが、6変数の場合がまだ解けていません。

しかし、出力データから逆問題でアプローチするより、RNG内部の元信号を直接記録解析する方が、現実的と思われる。

また、PK検出用のアナログ回路の開発を検討した方がベストだと思われる。

第四五四回関西日本サイ 科学会研究集会報告

どうなる2021年、そして
近未来社会は、新しい文明
の始まりを予感

講師 水口 清一氏

日時 令和3年1月16日(土)
会場 阿倍王子神社参集殿

今、世界は政治、経済、加えて
コロナ感染で大変革の時代を迎え
ています。米中戦争で世界はどう
なっていくのでしょうか。

我が国日本も菅義偉首相が新しい体制に向かってスタートを切りました。「これからどうなるのだろうか」と心配がつきないですね。ところで、今回の人類社会の大変革はいつときの混乱ではありませぬ。現在はあらゆる周期現象の集中地点、つまり大変化(変革)の

入り口に立っています。大袈裟に言えば宇宙規模での「新しい文明の始まり」といえるかもしれませぬ。

ここで、マクロ的俯瞰的に地球規模での出来事の周期を眺めてみると・・

氷河期12000年周期(寒冷期の時代に入る)

人類文明2500年周期(戦いの時代から調和の時代へ)

西洋文明と東洋文明800年周期(アジアの時代)

覇権国120年周期(アメリカの覇権国の終焉)

これらの周期が一点に集中している時代(転換期)なのです。一点と言ってもある日突然やってくると言う意味ではありません。それぞれの周期には誤差があります。これらの周期の波が干渉し重なり合いながら大異変が近づいてくるのです。

「景気がいいとか悪いとか、政治の舵取りがいいとか悪いとか、金持ちであるとか貧乏であるとか」、そんなスケールの小さな話ではありません。これは大宇宙レベルでの営みの話です。

とはいえ、どんな大異変が起こっても「世界が終わる」わけではありませんが、ミクロの話も大切ですので、近未来についてもあわせて予測してみたいと思います。



◎水口清一氏プロフィール

AIマンダラ研究所長、1960年代より人間の無限の可能性を引き出すため、右脳開発や速読などの加速学習法、夢の実現法、超能力やシンクロを起こす方法などの潜在能力開発、未来予知法、「意識場」による次世代の会社経営・管理法など、先駆的なセミナーやプログラムを開発してきた。

大学時代は探検部に所属、全国を山々を探索。熊野で言霊と禪の行を修め、東洋の神秘に触れる。東洋思想にもとづく独自の視点に

よる未来予知には定評があり、テレビ、新聞、週刊誌、ラジオなどマスコミでも取り上げられた。

「夢のプラットフォーム」を主宰。AIマンダラ研究所・所長。潜在能力の開発 催眠法、イメージコントロール、超意識、言霊、数霊、場のマネジメント、創造性開発、瞑想、東洋思想、コミュニケーションづくり、未来予知、夢の実現法などを専門分野として先駆的なプログラムを開発。セミナーや企業研修など幅広く活動している。

著書に「潜在意識の大活用」、「パトチャル社会と意識進化」、「未来予知能力の開発」、「人はみんな魔法使い」、「人生は魔法の世界だ」、「90日で願いが叶う魔法の本」、「これから日本の時代になる理由(わけ)」など多数。

『バクトロン仮説』(政本和三博士)と「反重力」

関西日本サイ科学会会長

和田 高幸

1970年代後半、初期のPS

学会(現日本サイ科学会)大阪支部(木村六郎支部長)では、大阪科学技術センターの一室で月例の研究集会が行われていたが、会場では毎回政本和三氏(大阪大学工学部工作センター長)の姿をお見かけした。政本博士は炊飯器やエレキギター、バイオライトなど数々の電化製品の発明者として知られるが、医学部に在籍、筋電位についても研究している。そのためか、超能力者として来日したユリ・ゲラー氏に触発されてブームとなった「スプーン曲げ」に興味をもったようだ。その過程で生成したのが、いわゆる「バクトロン仮説」である。

「バクトロン」とは真空を満たす微細な粒子を想定した造語だが、さまざまな物質を通過する際、その量(エネルギー)や方向をコントロールすることで物質の結合力を緩めたり、また浮遊させたりできるといふものだ。コントロールする条件として、彼は「精神波」の存在をも仮定している。そういったアイデアをまとめた『メモ』(青焼きのコピー…かなり劣化している)が整理中の資料から出てきたので、たとえばUFO(いわゆる反重力

機関)とか彼の発明による治療器「超強力神経波磁力線」とその延長線上にある「低周波治療器」などの関連で思うところを述べたいと思う。

(資料)

http://adies.jp/kps/data/masaki_bacton.pdf

治療器「超強力神経波磁力線」

私事、白内障の手術を受けることになった昨年夏、術前検査で初期の膀胱がんが見つかり処置することになったが、その後これを知った当会員K氏が政本博士の発明品「超強力神経波磁力線」を寄贈してくれた。効能はともかく、これを契機として、わたしは「反重力」、あるいは「磁場」とか「超伝導」についてあらためて考えてみた。

「重力」あるいは「引力」からの解放は、人類の直立二足歩行、また重量物を宇宙空間へ運搬する際のロケット燃料「液体水素」の発明(アポロ計画)などエポックメイキングな出来事とかかわっている。小宇宙としての人体を克服す

れば、大宇宙を自由自在に航海するのも夢ではなくなるだろう。

「真空」を満たす媒質「バクトロン」

さて、真空で何もないと考えられている宇宙空間だが、重力(引力)、あるいは光を一種の波動と仮定するならば、それを伝える媒質(媒質)がなければならぬ。宇宙空間を満たす媒質として、かつては「エーテル」(Ether)が想定されたが、「バクトロン」(超微粒子)はこれにわかるものかもしれない。とはいっても仮説であるから、もちろん発見に至ったわけではない。

ある物体周辺にある「バクトロン」を取り去れば、その物体に引力がなくなる。つまり「無重力」となるが、バクトロンが、一般的に反重力機関と想定される「空飛ぶ円盤」いわゆるUFOの動力として用いられているのではないかと、という仮説も成立するだろう。ある方向に重力波の送受口をあげれば、その推力により一定方向への飛行が継続できると推察されるからである。

「スプーン曲げ」の原理

引力は「バクトロン」によって生じる物質間の「結合力」ともいえようが、この力に抗う粒子として政木博士は「精神波」を仮定している。「精神波」は光に似た波動性の粒子と考えられているが、光粒子より小さく、しかし「バクトロン」に比べると相当大きな質量をもっているらしい。そのため、金属など物質内に精神波を注入すれば、その分だけバクトロンが押し出されて希薄となる。そして結合力が弱く、柔らかくなる。これが「スプーン曲げ」の原理と考えられるが、この仮説を受け入れられるならば、いわゆる「超能力者」たちは、強い「精神波」を出せる人物といえるのではないだろうか。

「空飛ぶ円盤」と「超伝導」技術

重力は強い結合力を伴うが、偏在する「バクトロン」の量を減少させれば「結合力」を緩めることができるはずだ。つまり「反重力」的作用であるが、わたしは「空飛ぶ円盤」と目前数メートルの至近距離で接近遭遇、撮影した経験を

もっている。そのとき、直観的に、「リニアモーターカー」という印象をもったことが思い出される。

「反重力」が「磁気」と関連があるのかどうか不明であるが、磁気の反発を利用して空中浮揚する「リニアモーターカー」には「超伝導」現象が応用されている。空中を音もなく飛行、鋭角でターンする「空飛ぶ円盤」は、空気(大気)との摩擦を度外視した超伝導現象であろうことは否定できない。空中にブカブカと静止するさまは、かつて日航が開発してお蔵入りになった超伝導飛行船「HSSST」と酷似するが、「リニアモーターカー」にしても「空飛ぶ円盤」にしても、すでに半世紀ほど前にこういった技術が現実のものとなっていたことをあらためて確認したいと思う。

「大宇宙」と「小宇宙」(人体)

それはともかく、政木博士が実用化した「超強力神経波磁力線」治療器は、重力(結合、緊張)と反重力(弛緩)にかかわっているようだ。「バクトロン」の関与については未知数だが、症状により効

果は異なることが推測される。

結論として、『バクトロン仮説』が、人体(小宇宙)における「緊張」と「弛緩」にまで発展させるヒントとなったことが、このメモから推察できるのである。

◆ ◆
本部例会ビデオ映像販売のお知らせ

ハイビジョン映像・音声ファイル(約3時間)を記録したUSBメモリでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることができます。

価格 1本につき 二五〇〇円
 (送料含む)

※御注文はメールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス(またはFAX番号)に、「20※※年〇月〇〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。

office21@psij.mail-box.ne.jp
 FAX047・330・4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みただければ、結構です。
以下のビデオ映像から、御注文願います。

◎2013年4月本部例会
講師 大野 百合子氏

「宇宙図書館(アカシックレコード)から見た世界の仕組みと私たち—あなたは誰なのか—」

◎2013年5月本部例会

講師 浪平 博人氏

「イメージによる瞬間教育」

◎2013年6月本部例会

講師 松原 秀樹氏

「アレルギーを治す秘訣」

◎2013年7月本部例会

講師 酒向 猛氏

「千鳥学説を知るために」

◎2013年9月本部例会

講師 奥野 節子氏

「ブラジルの奇跡のヒーラー
ジョン・オブ・ゴッド」

◎2013年10月第23回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと自然治癒力」

◎2013年11月本部例会

講師 小久保 秀之氏

「生体センサによるサイ研究

—超能力研究の最前線—

◎2014年1月本部例会

講師 小川 博章氏

「魂の発見」

◎2014年4月本部例会

講師 西川 真知子氏

「生命の智慧 アーユルヴェーダ—アーユルヴェーダから見る生命のすばらしさ—」

◎2014年5月本部例会

講師 岩根 和郎氏

「般若心経とサイ科学」

◎2014年6月本部例会

講師 秦 西平氏

「気と生命哲学と哲学」

◎2014年7月本部例会

講師 小林 信正氏

「ラップ現象の究明—オーブとの関連性について—」

◎2014年9月本部例会

講師 石川 允朗氏

「死後の世界と輪廻転生についての一考察」

◎2014年10月第24回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと天変地異」

◎2014年11月本部例会

講師 坂井 洋一氏

「日本人は知らない！縄文日本の驚くべき真実」

◎2015年1月本部例会

講師 英国からの特別ゲスト

「THE SOURCE CODES
ソースコードは何ですか?」

◎2015年4月本部例会

講師 根本 泰行氏

「水からの伝言」と「新しい水の科学」

◎2015年5月本部例会

講師 水華 氏

「君を見放したりはしない—宇宙神技点描画家—水華の世界(ヒカルランド)」

講師 上部 一馬氏

「巨大地震を1週間前につかめ」

◎2015年6月本部例会

講師 末武 信宏氏

「先端アンチエイジング医療&超人を生む自律神経の開発」

◎2015年7月本部例会

講師 飛沢 誠一氏

「見えない世界の情報を如何に活用するか?」

◎2015年9月本部例会

講師 山田 欽子氏

「あなたの人生が楽しくなる
インド占星術」

◎2015年10月第25回全国大会

シンポジウムテーマ

「あの世と多次元世界」

◎2015年11月本部例会

講師 坪井 香讓氏

「野性と霊性・ヒトの原点
「直立二足歩行」から問う」

◎2016年1月本部例会

講師 佐々木 茂美氏

「オーブ研究の現状報告」

◎2016年2月本部例会

講師 正木 晃氏

「霊魂観の現在」

◎2016年4月本部例会

講師 沖田 祐美子氏

◎2016年5月本部例会

講師 河野 貴美子氏

「意識、無意識、そして潜在能力を脳の観点からどこまで解明できるか?」

◎2016年6月本部例会

講師 エスパー・小林 氏

「運」がつく人、「霊」が憑く人」

◎2016年9月本部例会

講師 志賀 一雅氏

「7.8Hzのスローα波の驚異」

◎2016年10月

創立40周年記念大会

シンポジウムテーマ

「地球外知的生命…UFOと宇宙

対(光子)であり、変成意識状態(ASC)付近で、目隠し(非肉眼)で物を見る時に、無意識層から「意識体として、体外に放出されて、物を見る」。つまり「念」はspin対(光子)であり、視覚を持っている。意識体の視覚とはなにか。

6-2) その2

1)の(4)をみる。霊媒はASCに入り、失神状態になって霊の媒介をする人。超能力者は、ASC付近になって(脳波を7~8Hz)、サイ(気)

を用いて特異効能を示す人。両者の比較検討が必要である。ただし共通項は多い。

6-3) その3

福来先生の(念)、欧米の(霊)、筆者らの(サイ・気)の比較検討が望まれている。

ご指導いただいた品川次郎先生にお礼申し上げます。

-
- 人(宇宙人サミット)」
- ◎2016年12月本部例会
講師 藤枝伸二氏
「藤枝流健康増進法」
- ◎2017年2月本部例会
講師 秋山佳胤氏
「私たちの存在の本質について、波動的、物質的視点から考える」
- ◎2017年4月本部例会
講師 池川明氏
「子供達の出産前の記憶が教えてくれること」
- 「子供サミット」
生れる前の記憶を持っている子供たちと、たいわ士の南山みどりさんのたいけんトーク会
- ◎2017年6月本部例会
講師 大高ゆうこ氏
「自分も知らない自分と出会うー夢のチカラ」
- 講師 小林敦氏
「人類の存亡を分けるもの」
- ◎2017年9月本部例会
講師 石川允朗氏
「健康で長生きすることを科学的と心霊的、そしてSWIIについての実演」
- ◎2017年10月第26回全国大会
シンポジウムテーマ
「AIを乗り越えるのは? AI「人工知能」vs PSI「サイ能力」」
- ◎2018年2月本部例会
講師 篠浦伸禎氏
「覚醒下手術から始まる統合医療」
- ◎2018年4月本部例会
講師 七沢智樹氏
「ロゴストロンシステムが拓く未来」
- ◎2018年6月本部例会
講師 由井寅子氏
「体・心・魂を三位一体で治療に導く未来の医学『ZENホメオパシー』」
- ◎2018年7月本部例会
講師 清水浦安氏
愛宕なみ氏
「天界に帰還した中村天風先生が今の日本人に伝えたいこと」
- ◎2018年9月本部例会
講師 秋山真人氏
「40年余の宇宙文明コンタクトから判ってきたこと、異星人と意識」
- ◎2018年10月第27回全国大会
シンポジウムテーマ
「水と健康」
- ◎2019年2月本部例会
講師 東中川徹氏
「エビジェネティクスとは何か?」
- ◎2019年4月本部例会
講師 佐々木茂美氏
佐藤禎花氏
- ◎2019年9月本部例会
講師 志賀一雅氏
「脳波とバンアレン帯との共鳴について」
- ◎2019年10月第28回全国大会
シンポジウムテーマ
「スピリチュアル・ヒーリング」
- ◎2020年2月本部例会
講師 アマナ(呉清恵)氏
「カタカムナ潜在物理」を基にした生命創造の基礎構造(仮説)による意識体ゼロ化を可能にするヒーリングメソッド」
- ◎2020年9月本部例会
講師 山崎正男氏
「多能性幹意識の誘導による超能力の覚醒とシーター波の脳波(iPT意識)」
- ◎2020年10月第29回全国大会
シンポジウムテーマ「サイと免疫力」ガン・ウイルスとの闘いも含めて」
- 苗鉄軍氏
「オーブ研究の最近について」
- ◎2019年6月本部例会
講師 小久保秀之氏
「マイクログPK現象の発生メカニズムについて」

よって計測されることになる。——計画通りに実験は、進められる。——有難うございました。——テスト終了後は、クルマで、調布市の実験室から都内の足立区の自宅まで送ることになる。そして、実験者が、調布の自宅に着く頃になると、夜が明け始める。

5) 念写 (物質化) の進行

サイ (気) は空間に充満している。念写実験に際しては、撮影者に関係した特殊なサイ・気 (ユング、統合的無意識) を集める必要がある。個性、カルマ、家族、民族、地域、人種等も関係している。また、念写像は、物質 (オーブ) と素粒子 (陰陽サイ spin 対) の集合体でもある。癖もある。これらはオーブ出現の状況をみれば分かる。

初めに、撮影場所の選定が必要になる。(1) サイ (気) が存在している場所：聖地 (神社、仏閣等)、パワースポットなど。さらには蜜集した市街地・住宅地の上空、高速道路の上空、など。多少埃っぽい場所が良い。ただし、これらには、濃淡がある。

5-1) (B) と (A) の間にある [マクロPK] によって念写が進行する。

ただし、意識体 (サイ・気) の視覚による位置の確認が必要である。(B) は対象になるオーブ (物質、実体) でイオンボールとも言われている。(A) は被験者の意識である。サイ (気) を集めるためには、(1) 湿度：家庭用のキリフキで噴霧を造り、キリが消えたあと (1~8秒後)。(2) 温度 (気温は 14~16℃)。(3) 実験者自身の準備：瞑想、呼吸法、催眠などで、脳波を 7~8Hz に下げる事を、練習する。これらを揃えると、オーブの出現率は、従来の 1/150 から 1/3 にまで上昇する。実験中の注意事項として、(4) B の念写像 (オーブ) は白色 (マンセル色表示で、各光の強さ等しい事)。さらに、(5) オーブ (念写像) の周りには、ノイズ状の微小オーブ (念球) が取り巻いていて、しかも白色である事。つまり、撮影者 (A) (能力者) から放出される陰陽サイ spin 対と、(B) の意識体 (オーブ) とが共振する (同調する) 事によって念写の形成が進行する。つまり、この時、オーブ周辺にあるノイズ状オーブ (白色、念球) の加入 (加算) が必要になる。

5-2) 「マクロ量子重ねあわせ」によって、念

写像形成が進行する。

量子は原子核を構成する陽子、中性子、電子などの総称で、光も量子の一種なので光子という。量子の不思議な性質は粒子性と波動性の二つの性質を兼ね備えていることにある。電子はフェルミ粒子なので、停止している時は反発しあうが、移動しているときは光子になるので、互いに引き合い、ボース粒子となる。また電子には「量子もつれ (絡み合い)」、または「観測問題」などがある。波長などの異なる波が「絡み合い (重ね合わせ)」になっているので、波動としてのシュレーディンガー方程式を正確に決めることは出来ない。しかし、観測すれば、「重ね合わせ」は瞬間的に壊れて、一点に収束して、点 (実像) が確率的に定まることになる。

以上はミクロな量子の現象である。最近は、マクロな空間でも「重ね合わせ」が問題にされている。つまり「BEC」である。ただし、問題もある。室温で、レーザー光もない雰囲気では、BEC がどの様にすれば生成出来るかが問われている。いま、かりに室温でも BEC が可能であると

する。あらゆる量子状態は、2つ以上の異なる波の重ね合わせで表すことが出来る。例えば、福来先生の「念」は、時間や空間を超えて宇宙に充満している、という。「念」はサイ (気) であろう、と判断している。先述したが、A は被験者の意識、B は念写像である。A には B の波が、B には A の波が「重ね合わせ、絡み合い」になっているだろう、そして、観測によって、B が実体化され、物質化が進むことになる、と考える。ただし、この場合にも、念写像を加算・形成させるノイズ状の白色オーブ (物質化の素材) の存在が必要になる。この様な手法によっても、念写形成が進む事になる。

6) 検討並びに討論

筆者は、次記の様に考えております。実験結果が少ないので、成否が不明です。検討と討論をお願いします。

6-1) その1

1) の (1) をみる。福来先生は、結論として、{念} は、願いを持ったエネルギーであり、時間や空間を超えて宇宙・空間に充満している、とした。筆者らは、(念) はサイ (気) を意味していると判断している。サイ (気) は、陰陽サイ spin

「透視と念写」が発見された。それから約110年を経た今、私達は、3日月型の月の念写像を体外の空間に形成させる実験を行っている。福来先生は、(7) 念写の「念」は、時間を超える(遙か昔の弘法大師像の念写が可能)、空間を越える(遠くの、月の裏側の念写像が可能)、願いを叶える[数枚重ねの乾板の任意の枚数目に、任意の念写像を念写する]等から、念写の「念」は、時間を超えて宇宙・空間に充満している、また、(8) 透視や念写の研究を進めると、「霊」の本質が分かる様になるだろう、と解説している。なお、これらの福来先生の実験結果は、欧米の「霊の物質化現象」に類似している様に思われる。

2) 透視・念写実験

筆者らの実験をみる。(1) 呼吸法などを用いて被験者の脳波(思考)の自由度を下げて、変性意識状態(ASC)付近になり、目隠しをして、非肉眼で物を見る(透視の実験)。すると、(2) 大脳の無意識層から「サイ(気)」が体外に放出されて意識体を形成する、つまり意識体にも視覚が移り、向こう側からも物を見ることになる。(3) 判断が難しい文字や図形を見る場合には、(放出した)向側にいる意識体から、こちら側にある事物を見ることになる。これには多くの実例がある。例えば、(4) 透視時には、鏡像が出現する(佐々木ら)。同様に、(5) 念写時にも鏡像が出現する(福来、佐々木)。ここに、鏡像とは、右と左が逆で、上下は其の儘(正像)である事を意味している。つまり、視点が向こう側に移った場合(鏡像)と、こちら側にもある場合(正像)、つまり、場合に依じて、視点が2箇所になることを意味している。なお、(6) 三日月型の月の念写像の画像解析によると、意識体を構成する要素は、陰陽のサイ spin 対(光子)である事がわかった。

応用例としては、例えば、(7) 念写実験の場合には、体外にある意識体(向こう側、B)と意識(こちら側、A、大脳皮質)の間で「マクロPK」並びに「マクロ量子もつれ」が成立する事によって、情報の交換が行われ、念写形成(三日月型念写像)が進行する、と判断している。

3) 念写像(実像)の形成

量子は原子核を構成する陽子、中性子、電子などの総称である。電子は動いている時は光

子になるので、波としての光も量子の一種である。最近は、マクロな空間でも量子の波の「重ね合わせ」が生起する事が解ってきた。例えば、ボース・アインシュタイン凝縮(BEC)がある。室温での量子の運動は様々であるが、極低温(絶対零度付近)になると、運動は縮小して、あたかも一個の量子の様に振る舞う。そして量子重ね合わせ(絡み合い)の崩壊による固定化(場所、時間)が起きる。その結果として、AとBの間で念写が進行する。——ただし、問題がある。どのようにして、室温でプラズマ光が無い環境で、BECが生ずるのか、——が問われている。

他方、今回の三日月型の月の動念写の場合には、変性意識状態(ASC)付近になった能力者(A)から放出された意識体{サイ(気)}が、体外にあるオーブ(B)に付着して(依り代として)、念写像になる。そして、AとBとの間のマクロPK(念力)、つまり同調、共振によって念写が形成・進行することになる。

4) 念球の実現

透視の場合と同様に、念球(念写の小型)を扱う。この時、体外に放出される意識体(サイ・気)は球状化(直径約1mm)した陰陽サイ spin 対(光子対)群である。

清田益章さん(少年時)の場合をみる。実験者は小川雄二、佐々木茂美。例えば、或る土曜日の午後。昼間はボール投げ、ふざけ合う、等で学生と遊ぶ。簡単な夕食を済ませたのち、実験室内でテスト開始となる。超常現象を見たいという観察者(学生、数名)と雑談をしている。2~3時間も待たされると、あきらめて帰る学生もいる。終電車近くになる。すると、テストは本番になる。私たちは、サイ(気)の出現を促すために、例えば「くみ上げポンプの呼び水効果」を用いている。念球の出現付近になる(勘で分かる)。清田さんは実験を続けている。しかし(サイ・気)は出現してこない。——変性意識状態(ASC)付近になると——実験者は、暗缶内(光と電磁波を遮断した缶内に太陽電池と発光ダイオードを入れた)内のダイオードから既知の光(商用電源、光)を出して、——驚いてみせる(あー出たー)。——すると、(びっくりして)これに釣られて、清田さんの無意識層から(サイ・気)つまり(意識体、念球)が、体外に放出される。そして、念球は、測定装置に

きてX線に変わり吹き出し状に泳いだ後右側の隅に50円玉の像半分が感光した姿になっている。なおこれらの念写写真はいずれもネガ像なので濃い方が感光が進んでいる。

X線は自然でも存在するので長い間金物を歯科用フィルムの未開封パック上に載せておけばその金物の像の形が抜けるように感光することも考えられる。そこで念のため、歯科用フィルムの未開封パックを、念写をしようとする人が傍にいない状態で、念写に要する時間と同時間放置した後現像してみたが、やはりそのような感光は見られなかった。



写真1

左が磁場非印加で念写したもの
右が磁場印加で念写したもの

(※モノクロ印刷物になると明暗の区別がつかなくなる可能性があるので、グレースケール画像の黒白の階調0~255で示すと、左ではほとんどの画素が階調50に集中しているのに対し、右では階調1~50まで分布し平均45になっている)



写真2

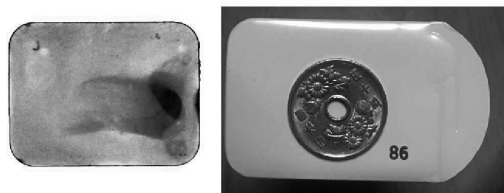


写真3

サイ(気)による念写像の物質化(その1)

栗田 慶祐

1) はじめに

心霊現象研究の開始は、ニューヨーク州の「ハイズヴィルの幽霊屋敷」のラップ音(叩音)の発見(1848)であると言われている。実験は続けられており、多くの結論が得られた。一例として、(1) 霊は煙の塊のような希薄な物質であり、普通は、肉眼では見えない。そして、時間が経過すると、煙のごとく消えて無くなる。しかし、(2) 霊媒の作用によって霊が幻化した時、つまり魂が霊媒から霊に移った場合には、普通と同じように、吾人にも見えるようになる。なお、(3) 霊媒とは、霊の媒介をする超能力者の事で、

脳波を変性意識状態(ASC)まで下げて失神状態となり、魂を霊に移す人のことである。さらに、(4) 霊から分現した幻化相と力化相とが、陰陽2面のごとく交互に呼応して物質を生み出す。(5) 無尽の霊は、宇宙空間の一切空間に偏在していて、念ずれば念に相応する様相を出現させることが出来る、これらが心霊現象の根本原則である、という。以上は、(6) 失神状態の霊媒(の魂)が、霊の媒介になる事によって、様々な心霊現象を生起させている事を意味しているのであろう。

日本では、福来友吉博士によって1910年に

アクション場 $\psi(x, t)$ が満たす方程式

$$\left[\frac{1}{c^2} \frac{\partial^2}{\partial t^2} - \nabla^2 + \left(\frac{mc}{\hbar} \right)^2 \right] \psi(x, t) = 0$$

と一致する。ここで m はアクションの質量である。散乱理論でよくやるように

$$\psi(x, t) = \phi(x) \exp(-E/\hbar \cdot t)$$

とにおいて、アクションが H. Forwald のサイコロの被覆 $x=0$ から z までアクションのエネルギー E と同程度の、一定値の障壁ポテンシャルにより非弾性散乱された結果、被覆を含むサイコロが得たエネルギーとして、

$$\phi(z) = E_m [1 - \exp(-mc/\hbar \cdot z)]$$

の形で H. Forwald による念力実験式が導ける。その際 H. Forwald が発見した材料によらない普遍定数 $a=0.00655 [\mu^{-1}]$ が上述のアクションの質量 m の観測値から再現されるのである。上記全国大会では「念力はまず π 中間子タキオンに働く」と述べたが π 中間子とアクションは量子物理学でいう混合 (Mixing) の関係を構成しており、磁流の分布定数回路的には下流と上流の関係にあたることがわかった。

筆者はすでに「念力計」の開発に成功しており、それを用いた実験などを通して、念力に成功するには、相手 (ターゲット) に意識を送るだけでなくターゲットの位置を透視することも重要であることがわかっている。そこで透視など ESP もアクションによるのではないかと考え、当方得意のスカラー波発生技術を用いたアクション場供給下で、3桁または4桁の数値をコンピュータの乱数で特定時間後に発生する装置立てを用意し、事前にその数値を予知透視する実験を2万回ほど行い、予知透視に成功したケースが偶然確率をどれだけ上回っているか統計学上の検定を行った結果、 p 値=10のマイナス56乗で予知透視能力が発揮されていることが確認された。

以前このジャーナルでもご説明したように、(とくにターゲットを残像ができるまでみつめる方式の場合) 念写は、右眼と左眼から出る二つのスカラー波の交差領域における縦波成分から横波成分 (つまり光) への変換分が感光したものだ。アクション波はスカラー波のひとつだ

が、サイズから考えて視覚野のミニコラム構造など、そのニューロンの7回貫通型Gタンパク共役受容体群からアクション波が出ているとみられる。こうしたことから、念写もアクション波 (アクション量子) によると考えられる。

アクションは軽くまた基本的に重力相互作用しかなないのでなかなか「見る」ことができないが、磁力線に触れるとフォトン (光子) に変わるといわれている。つまり磁力線のもとでフォトンが湧き出すようにみえる。この現象を利用してアクション波が効率よく横波成分に変換されるよう、念写用フィルム (歯科用フィルムを使用) の近傍に磁場をつくることを考えた。因みに最初の念写能力者長尾郁子の丸亀市は地磁気の鉛直成分が四国の中では最も強い地区である。

検討の結果、一様な磁場 (平行な磁力線の場) があると人体からのアクション波が効率よく横波成分に変換されることがわかった。それを作るためにはヘルムホルツコイルを用いる方法もあるが、電流など外部からエネルギーを注入すると誤解を招くおそれがあるので、理科実験で用いるような棒磁石を複数束ねて作る方法を用いた。このN極側の端面上に未開封の歯科用フィルムを置いた場合と素の場合 (磁場非印加の場合) を比較するのである。もちろん歯科用フィルムはX線フィルムである。

ターゲットとしては金物を歯科用フィルムの未開封パック上に載せて、残像ができるまで凝視する方法で念写を試みた。こうすれば、未開封パックの内側で両眼からのアクション波の焦点ができてX線に変われればその金物の像の形に感光し、未開封パックの外側、両眼に近い方でアクション波の焦点ができてX線に変われればその金物の像の形が抜けるように感光するはずである。

実際、東北日本サイ科学会のメンバーなどこれまで延べ60名弱の人にこの実験をしていただいたが、その9割で磁場を用いた方が明らかに感光が進んでいた (写真1のサンプル参照)。そして約5割でターゲットの金物の姿が明確に写っていた。写真2と3にターゲットの金物を50円玉にした場合の結果を示す。写真2は50円玉の部分が感光が抑えられそれ以外が感光しているサンプルを示す。写真3は50円玉の部分が感光しているサンプルである。このケースでは未開封パック内にアクション波の焦点がで



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

サイ現象はアクションによって起きている!

東北日本サイ科学会会長 佐佐木 康二

PK、ESPなどいわゆるサイ現象は、宇宙物理学でいわれているダークマターの最有力候補でもあるアクション量子によって起きているのではないかと、そんなことが明らかとなってきた。

アクションは素粒子物理学において標準模型の未解決問題を解消するためにその存在が期待されている公式的には未発見の素粒子であるが、既にノーベル賞が与えられているヒッグス粒子のその位相から出る量子(南部-ゴールドストーン粒子)であり、間接的観測ではあるものの独立に複数の研究グループにおいて共通の質量値が求められている存在である。

この話は筆者研究中の「磁流理論」と実験によるものなのでこし説明を要する。

磁流理論は時空の表式であるローレンツ変換が通信線や電力線を表す分布定数回路と同じ形をしていることに注目した理論。分布定数回路は神経系の簡単表現であることから意識を含む物理を扱えるのではないかと考えた。分布定数回路は複素数(複素電圧や複素電流)を扱うモデルであるため時空の理論としての分布定数回路(磁流の分布定数回路と呼んでいる)は必然的にタキオンも含むことになる。現在のところ一般に神経系の電圧、電流はとくに脳波を考えれば意識の状態を表すと考えられている。この状態は数学的に電圧や電流を各軸にとった状態空間に表示される。このような場合脳波は状態空間の渦軌道として表示される。したがって磁流の分布定数回路の状態空間に表示される軌道の角運動量は時空の意識を表しているともみることができる。この渦=意識の発想は古代からある人類の英知や哲学というコナトゥス(conatus)という概念に一致する。この意識の状態を変化させる力が意志力である。したがっ

て時空の角運動量分布を変化させる力は宇宙の意志(意図)であるとみることにもできる。磁流の分布定数回路は我々自身も含むので、我々の意志による角運動量の変化はその一部として起きているともみることができる。それが念力(念動力)だろうというのが磁流理論の考え方である。

磁流理論では我々を含む時空は磁流の分布定数回路で表されるタキオン・エーテル(タキオンでできたストカスティックなエーテル)で出来ていると考える。そのように考えると、実際、この宇宙にある粒子はタキオン・エーテルの渦であり渦にならなかったタキオンは重力などいわれる4つの相互作用をつくっていることをそこから量子論のシュレーディンガー方程式や各相互作用の方程式を導くことで示すことができること、そしてその一環としてH.Forwaldによる「サイコロの位置決めテスト」(1950~1960年代)における念力のエネルギーEについての実験式

$$E = E_m (1 - e^{-az})$$

も導くことができることは、第2~4回の日本サイ科学会全国大会(1990~1992年)でも述べた。ここでzはサイコロの被覆の厚さ、aは被覆の種類によらない定数で $a=0.00655 [\mu^{-1}]$ である(H.Forwaldの念力実験式については「サイ科学」Vol.1, No.3 (1976) pp22-27参照)。

上述のような意識でもあるタキオン・エーテルの角運動量の変化としての運動量と圧力の場は、現代物理学という電磁ポテンシャル(ベクトル・ポテンシャルとスカラー・ポテンシャルと呼んでいるもの)を含んでいるともみることができる。このポテンシャルが満たすクライン・ゴルドン方程式は磁流の分布定数回路から導かれ、